

令和6年度 日向市立平岩小中学校 学校評価報告

評価項目1【学ぶ力】 4…期待以上 3…ほぼ期待通り 2…やや期待を下回る 1…改善を要する

重点実践事項	具体的な手立てと評価指標に対する達成状況	評価	改善策	学校関係者評価	委員の意見
①実態に応じた授業の工夫改善	各学年の実態に応じて工夫しており、主題研において「ひ、な、た」に分かれて相互参観している。	3. 1 児童生徒 3. 4 保護者 3. 0 職員 2. 9	・ 現在、主題研でテーマにしていることもあり、職員の共通理解・共通実践で進められている。来年度も全職員で組織的に進めていく。	3. 4	○ 授業を参観した様子では、どの学年も授業に真剣に取り組んでいる。これを継続していただきたい。
②自分に必要な学びを意識し、学習するための支援	家庭学習週間で粘り強く取り組んでいくことと、懇談や通信で呼びかけ、家庭との連携を図る。	2. 9 児童生徒 3. 2 保護者 2. 9 職員 2. 6	・ 現在も取り組んでいるが、よい学習の仕方を紹介したり、懇談や通信等で家庭との連携を図って協力を要請したりする。	3. 3	○ 家庭学習期間とあるが、それはどれくらいの期間か。→中学部の定期テスト前に合わせた1週間程度の期間。 ○ 学年ごとの指導の指針を2、3つ設定したほうがよい。

評価項目2【読書】 4…期待以上 3…ほぼ期待通り 2…やや期待を下回る 1…改善を要する

重点実践事項	具体的な手立てと評価指標に対する達成状況	評価	改善策	学校関係者評価	委員の意見
①読書に親しむ時間の確保	ブックの日や読書カード、読書の日などを活用している。	2. 5 児童生徒 2. 6 保護者 2. 2 職員 2. 7	・ 読書の時間の効果的な活用の仕方について工夫する（例：読み聞かせ） ・ ブックの日の取組について電子書籍を活用するなどの工夫をし、家庭でも読書に取り組む環境づくりを推進する。	3. 1	○ 電子書籍はもう導入しているのか。またどういう状況か。→県が推進しており、もう活用できる環境はできている。まだ、活用はしていない。 ○ 以前は、朝の読書があったが現在はどうなっているのか。→現在は実施していない。週に1度昼に読書の時間を設けている。 ○ 読み聞かせを復活させようとしている。地域の方にも協力を得たい。
②「ビブリオバトル」等児童生徒主体の活動の継続	ビブリオバトルで感想や質問ができるように事前指導をし、積極的な発表を促していく。	2. 5 児童生徒 2. 7 保護者 2. 2 職員 2. 6	・ ビブリオバトルについては定着している。ビブリオバトルに出場しない児童生徒への指導が必要であると考える。	3. 2	○ ビブリオバトルは、よい取組であるが家庭への周知が足りていない。周知の工夫が必要である。

評価項目 3 【一人一人のもつよさの発揮】 4…期待以上 3…ほぼ期待通り 2…やや期待を下回る 1…改善を要する

重点実践事項	具体的な手立てと評価指標に対する達成状況	評価	改善策	学校関係者評価	委員の意見
①自己決定の場・自己存在感・共感的人間関係が生かされる学校行事の充実	学年に応じて学校行事、各種ボランティア活動等において、目標設定、振り返りを行うことで自己肯定感と友達に対する肯定感を高める。	3. 6 児童生徒 3. 5 保護者 3. 5 職員 3. 7	<ul style="list-style-type: none"> 行事ごとの発達段階に応じた目標を立てさせる。 発表者、内容等のさらなるレベルアップを目指す。 小さな失敗を通して、自分を見つめる力を付ける。 	3. 6	特になし
②特別支援教育の組織的な取組	特別支援コーディネーターを中心として校内就学支援委員会や研修会を実施し、校内支援体制、進学指導の充実を進める。	3. 0 児童生徒 3. 1 保護者 2. 9 職員 3. 1	<ul style="list-style-type: none"> 発信が十分ではないので、継続的にやっていくことが大切である。 「うちの子の〇〇が気になる」となったときの窓口を明確にする。 	3. 5	特になし

評価項目 4 【キャリア教育】 4…期待以上 3…ほぼ期待通り 2…やや期待を下回る 1…改善を要する

重点実践事項	具体的な手立てと評価指標に対する達成状況	評価	改善策	学校関係者評価	委員の意見
①9年間を見とおした計画と学びのアウトプット	総合的な学習の時間や学級活動の年間指導計画の見直し・整理や計画的な実践による発達段階に応じた能力・態度の育成を図る。	2. 8 児童生徒 3. 2 保護者 2. 5 職員 2. 6	<ul style="list-style-type: none"> 来年度も年計の見直し、振り返りが必要である。 アウトプットする対象として地域の方を設定すると、相手意識ができて、具体的、効果的なアウトプットの仕方を考えることができる。 	3. 0	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童生徒の評価は高いが、保護者・職員の評価が低いのはなぜか。→取組をもっと見える化し、発信することが必要。 ○ 2月末に金ヶ浜高齢者クラブと3年生が交流予定。全世帯に案内を配付する予定。 ○ 地域コーディネーターとして、地域に周知を図っていく。
②多様な人材との関わり	総合的な学習の時間を中心とした校外学習や外部講師の招聘等により専門的な知識に触れるとともに、働くことの意義や生き方についても考える。	3. 3 児童生徒 3. 5 保護者 3. 3 職員 3. 3	<ul style="list-style-type: none"> いい話を聞いて終わりではなく、「まとめ→発表」まで行わせる。アウトプットを意識させる。 事前学習も大事である。事前学習をきちんとすることで、関心をもって話を聞くことにつながる。 	3. 4	特になし

評価項目 5 【健康の保持・増進】 4…期待以上 3…ほぼ期待通り 2…やや期待を下回る 1…改善を要する

重点実践事項	具体的な手立てと評価指標に対する達成状況	評価	改善策	学校関係者評価	委員の意見
①基本的生活習慣の育成	よりよい生活習慣の定着をめざしてさわやかチェックを全学年で実施している。全校一斉に生活習慣アンケートを実施し意識付けを行っている。	3. 2 児童生徒 3. 2 保護者 3. 2 職員 3. 1	・ さわやかチェックを実施しているが、結果を指導につなげられていなかった。委員会活動で児童生徒の取組とすることで意識付けを行う。	3. 2	○ 家庭との連携が重要である。今後も引き続き、家庭との連携を強化していただきたい。
②スクールスポーツプランの計画的な実施	体育の授業で使える授業カードを作成し、重点的な体力づくりを行っている。	3. 1 児童生徒 3. 4 保護者 3. 0 職員 2. 8	・ 毎月の取組を職員に知らせる。体育の始め or 終わりの5分程度でできる運動を周知する。	3. 5	特になし

評価項目 6 【防災・安全教育】 4…期待以上 3…ほぼ期待通り 2…やや期待を下回る 1…改善を要する

重点実践事項	具体的な手立てと評価指標に対する達成状況	評価	改善策	学校関係者評価	委員の意見
①知識に基づき、災害時に自ら行動できる訓練の継続	年3回の避難訓練や引き渡し訓練を計画的に実施し、児童生徒の危機管理能力の向上を図っている。	3. 1 児童生徒 3. 3 保護者 2. 7 職員 3. 4	・ 保護者に周知してゲリラ避難訓練を実施する。また、保護者にも講話を聞いていただいたり、避難訓練の様子を見ていただいたりする。 ・ 安全点検のグループの組み方を工夫することで先生方の負担を減らす。	3. 2	○ 抜き打ちの避難訓練は、とてもよい。その場で安全な行動を判断し、行動にすることにつながる。実施してほしい。 ○ ハザードマップを利用した活動も必要である。 ○ 不審者対応の避難訓練も必要。地域を交えてできないか。

評価項目 7 【お互いに尊重し合う人間関係】 4…期待以上 3…ほぼ期待通り 2…やや期待を下回る 1…改善を要する

重点実践事項	具体的な手立てと評価指標に対する達成状況	評価	改善策	学校関係者評価	委員の意見
①実態把握と組織的対応の充実	毎月ハートフルアンケートを実施し、児童生徒の状況を把握している。また、各学期に教育相談を実施し、児童生徒一人一人と職員が話す場を設定している。	3. 4 児童生徒 3. 4 保護者 3. 2 職員 3. 5	<ul style="list-style-type: none"> ハートフルアンケートは効果的であるので継続していく。ハートフル週間の中で聴き取りの時間を設定したい。 	3. 5	<ul style="list-style-type: none"> ハートフルアンケートとは、どんなものか。→月に一度とる。いじめがないか、嫌なことを言われたり、されたりしていないかという内容である。 毎月児童生徒の状況を把握していることはよい取組である。
②計画的・継続的な人権教育の実施	夏季休業中に全職員を対象とした研修を実施した。校外の研修会にも積極的に参加し、人権に関する視野を広げている。	3. 4 児童生徒 3. 6 保護者 3. 5 職員 3. 1	<ul style="list-style-type: none"> 人権月間の授業を共有できればよかった。来年度は共有できるような工夫を考える。 月間以外で意識が高まる工夫ができるとうい（掲示物、放送など） 研修のあり方については再検討する。 	3. 4	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育は概念を教えるのが難しいと思われる。児童生徒の評価が高いが、どのように教えているのか。→学年の発達段階に応じて、人権そのものではなく、関係する内容を教えることもしている。

評価項目 8 【貢献】 4…期待以上 3…ほぼ期待通り 2…やや期待を下回る 1…改善を要する

重点実践事項	具体的な手立てと評価指標に対する達成状況	評価	改善策	学校関係者評価	委員の意見
①学校内外でのあいさつの励行	全体へは継続して指導すると共に児童生徒会役員や生活委員会を中心にあいさつ運動を行っている。	3. 2 児童生徒 3. 5 保護者 3. 1 職員 2. 9	<ul style="list-style-type: none"> あいさつ集会後にあいさつレベルアップキャンペーンをしいて、意識付け、定着できるとよい。 委員会活動を活用する。（委員会活動に位置付ける。） 	3. 3	特になし
②「平岩レンジャー」等児童生徒主体のボランティア活動の継承	奇数月の第2土曜に実施する遊歩道清掃やまちづくり協議会からの要請による行事の補助等に積極的に取り組んでいる。	3. 2 児童生徒 3. 4 保護者 3. 1 職員 3. 0	<ul style="list-style-type: none"> 小学生との絡みがあるとよい。校内をもっとよくしていくレンジャー復活も考えられる。 担当の負担が大きいのて減らす意味を込めて生徒主体にしたい。 「ちょボラ」の精神を育てていく。平岩レンジャーに参加していない児童生徒の心を育てるために委員会活動を充実させる。 	3. 6	<ul style="list-style-type: none"> 平岩レンジャーはどのようにして登録しているのか。→全校児童生徒が平岩レンジャーであり、だれしもが活動できる。ただ、小学生は移動等地域での活動が難しい面も多い。 いろんな場で活躍しており、とても助かっている。 良い伝統が引き継がれている。 担当の職員の負担があるということだが、休みの活動は今は難しい。 管理職は休みも関係ないが、次年度は年に一度は地域のイベントに参加してほしいと願っている。